

今週の話題：

＜結核と空の旅に関するガイドラインの更新＞

民間航空機搭乗中、特に長いフライト中には、結核（TB）や他の空気感染や飛沫感染による伝染病が伝播する潜在的なリスクがある。航空機における TB 感染は、2003 年の重症急性呼吸器症候群（SARS）の集団発生、多剤耐性結核菌（MDR-TB）、広範囲薬剤耐性結核菌（XDR-TB）が報告されている。ヒト型結核菌群は長時間のフライトの間に感染源となり、他の乗客に感染が起る可能性がある。

空の旅における感染リスクは、TB に感染しているヒトの伝染性、暴露したヒトの感受性、曝露時間、発端症例との近接性、およびキャビンの換気効率に関連する。

結核と空の旅第 3 版には、空の旅における、MDR-TB および XDR-TB を含む TB の伝播についての懸念を述べ、予防のためのガイドラインを示している。

\* ガイドライン第 3 版の主な改正、2008 年

結核と空の旅の更新版：予防と管理のためのガイドラインでは、6ヶ所の主な改正がなされている。

1. 空の旅という状況での感染性、潜在感染性や非感染性結核の定義の改訂。
2. 結核感染患者の民間航空機の制限についてのガイダンスの変更、および潜在結核感染者のリスクアセスメント。
3. 感染防止を考慮するため、特別な場合を除き客室乗務員が感染者へ接近することの制限。
4. 空の旅の間に結核への暴露が疑われる場合の役割と責任の追加。情報提供とガイダンス。
5. 接触調査中の守るべき方法と手順についての提案。
6. 発生が起きた時、WHO の役割、空の旅に関連する結核に適応できる国際保健規則（IHR）の提供に関する追加情報。

\* 空の旅における結核のための症例定義

- ・ 感染性結核：喀痰塗抹検査・培養検査ともに陽性の呼吸器（肺または喉頭）TB の全症例。
- ・ 潜在感染性結核：喀痰塗抹検査は陰性であるが、培養検査陽性の呼吸器（肺または喉頭）TB の全症例（MDR-TB、XDR-TB にかかりやすい）。
- ・ 非感染性結核：2 回連続で喀痰塗抹検査、培養検査ともに陰性結果がでた呼吸器 TB の全症例。

\* 各カテゴリーで推奨される対策：

1. 感染性結核の場合、国の接触者調査を考慮して、接触者調査を実施することを推奨する。
2. 潜在感染性結核の場合、追加情報はリスク調査を行い、接触者調査が実施されるべきであることを決定するべきである。
3. 非感染性結核の場合は、更なる調査を必要としない。

\* 具体的な勧告：

旅行者：感染した人または潜在結核感染者は、非感染になるまで全ての航空機による旅行を延期する  
 医師：医師は全ての感染者と潜在感染性結核患者に、少なくとも 2 週間の適切な治療が終了して、かつ喀痰塗抹検査で 2 回陰性結果がでるまでは航空機による空の旅をしてはいけないことを伝える。感染性結核及び潜在感染性結核患者が診断にもかかわらず、旅行や空の旅をするつもりであることに気づいたら、直ちに医師は関係する公共保健機関へ知らせなければならない等。

公共の保健機関：公共の保健機関は感染性結核患者が航空機を利用して旅行計画していることに気づいた場合、航空会社に知らせ搭乗できないように手続きを行う。

航空会社：航空会社は、公共保健機関の適切な説明によって結核または潜在感染性結核と知った場合はいかなる人であっても搭乗を拒否しなければならない。

これらの推奨は 2013 年まで有効なままであることが予想されます。これらの情報とガイダンスの更新は WHO の web サイトを参照してください。

[http://www.who.int/tb/publications/2008/WHO\\_HTM\\_TB\\_2008.399\\_eng.pdf](http://www.who.int/tb/publications/2008/WHO_HTM_TB_2008.399_eng.pdf)

\* 急性弛緩性麻痺(AFP)のサーベイランスとポリオの発生率、2008年5月27日現在 WHO本部より

国/地域	AFP サーベイランス、2008 年		ポリオ症例数		
	弛緩性麻痺 症例報告数	年間のポリオでな AFP 率	適切な標本がある AFP 症例	2008 年 (野生型ウイルス)	2007 年 (野生型ウイルス)
アフリカ地域	3991	3.10	92%	251(233)	434(366)
アメリカ地域	500	0.78	77%	0(0)	0(0)
東地中海地域	3832	4.40	92%	17(17)	58(58)
ヨーロッパ地域	501	0.88	82%	0(0)	0(0)
東南アジア地域	14216	4.37	86%	243(243)	893(889)
大西洋地域	1035	0.64	85%	0(0)	0(0)
合計	24073	3.21	88%	511(493)	1385(1313)

流行ニュースの続報：＜インフルエンザ＞

第 20-21 週の間、世界のインフルエンザの流行レベルは低度のままである。

- ・ 香港：中程度の流行が報告され、主に A (H3) 型と B 型での流行で、A (H1) 型も報告された。
- ・ その他の報告：第 20-21 週の間、散発的な流行が報告された。アルゼンチン (A)、カメルーン (A)、カナダ (B, A) デンマーク (B)、フィンランド (B)、ギリシャ (B)、ニュージーランド (A)、ポルトガル、スリランカ (A)、英国 (B, A)、アメリカ合衆国 (B, A)。

ベルギー、ドイツ、メキシコ、ノルウェー、ポーランド、スロベニア、スペイン、ウルグアイではインフルエンザの流行報告はなかった。

(田中陽子、松田宣子、田村由美)